

水田畦畔の抑草効果が期待できるイブキジャコウソウの 福島県浜通りにおける初期生育確保技術（大熊町）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業
小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証
研究課題名 イブキジャコウソウによる畦畔管理
担当者 小椋智文、佐藤優平

I 新技術の解説

1 要旨

イブキジャコウソウは地面を覆うように生育するため、水田畦畔の雑草管理の省力化や景観美化等が期待され、岩手県では栽培マニュアル（以下「マニュアル」という。）が作成されている。通常は親株から挿し穂を得て育苗するが、福島県浜通りでは5月下旬の挿し木で高い活着率が得られた。また、初期生育確保のため、定植時に土壤被覆資材を使用することが望ましい。

- (1) 親株から健全な挿し穂（5cm程度）を採取し、5月下旬に育苗培土を充填した36穴セルポットに挿し木することで高い活着率が得られた（図1、表1）。6月下旬の挿し木では高温の影響等により活着率が低下した（表1）。
- (2) 育苗開始から10日間遮光し、6月下旬に定植した（図1）。
- (3) 定植時にはマニュアルのとおり防草シート等で被覆しない場合、雑草が繁茂し、イブキジャコウソウの生育が著しく抑制された（表2、図2）。

2 期待される効果

- (1) 浜通りで効率的にイブキジャコウソウの栽培を始められることが期待される。

3 活用上の留意点

- (1) 植穴が広すぎると隙間から雑草が繁茂してしまうため、マルチの場合は直径5cmで定植し、防草シートの場合は5cm四方になるよう対角線に切れ込みを入れて定植する。
- (2) 防草シートの上に土塊があると、そこに根を張り、防草シートを突き抜けて伸長し、シートを撤去する際に株を傷つける恐れがある。
- (3) 苗の購入や増殖方法の詳細についてはマニュアルを参照する。

II 具体的データ等

2023年5月	6月	7月	8月	9月	10月～
	○ — × — — ▽				◇ — —

○：挿し木、—：生育期間、×：遮光幕撤去、▽：定植※、◇：被覆資材撤去
 ※あらかじめ5月下旬に定植場所へ除草剤（グリホサートカリウム塩液剤）を散布している。

図1 栽培暦

表1 セルポットへの挿し木時期と活着株率

挿し木日	活着株率 (%)
5月25日 3本挿し	98.6
6月22日 3本挿し	84.7

※ 挿し木から約1箇月後に調査した。

表2 定植時の土壌被覆資材が初期生育に及ぼす影響

株の最大直径(cm)	
マルチ無	15.2
マルチ有	43.9
防草シート無	11.1
防草シート有	45.2

※ 9月1日調査。



図2 土壌被覆資材の抑草効果（9月1日）
 （左 防草シート有、右 防草シート無）

III その他

1 執筆者

小椋智文

2 実施期間

令和5年度

3 主な参考文献・資料

- (1) [栽培マニュアル] 岩手県農業研究センター，公益社団法人 岩手県農産物改良種苗センター，イブキジャコウソウで法面を被覆して畦畔管理を省力・軽労化（インターネット入手可）